

ラオス

主要データ

国名〔英名〕	ラオス人民民主共和国〔Lao People's Democratic Republic〕
面積(km ²)	236,800
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	6.5
人口密度(人/km ²)	27.4
GDP(百万US\$)	6,341
一人当りGDP(US\$)	984
主要鉱産物：鉱石	銅、金、銀、亜鉛
主要鉱産物：地金	銅
鉱業管轄官庁	エネルギー鉱山省鉱山局、地質局 (Ministry of Energy of Mines, Department of Mines, Department of Geology)
鉱業関連政府機関	計画投資省投資促進局 (Ministry of Planning and Investment, Investment Promotion Department) 工業・手工業省 (Ministry of Industry and Handicrafts)
鉱業法	鉱業法 (2009年12月公布)
ロイヤルティ	利潤税、個人所得税、物品税、資源税、関税等
外資法	改正ラオス外国投資奨励管理法 (1994年) の他、以下の関連法令 改正ラオス外国投資奨励管理法施行細則 (2001年)、優遇措置に関する大統領令 (2003年)、中央及び地方レベルでの投資管理・外国協力・国内投資委員会の役割・責任・権利に関する首相令 (2003年)、事業法 (1994年)、関税法 (1994年)、改正ラオス労働法 (1994年)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境保護法 (1997年4月施行)
鉱業公社	なし
鉱業活動中の民間企業	Minmetals Resources Ltd.、PanAust Ltd、Amanta Resources Ltd.
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	中小企業による乱開発による環境への悪影響等を受け、鉱業法の改正を行った。
2010年のトピックス	新鉱業法案が2008年11～12月の国会で採択され、2009年12月に公布された。ラオス政府が英文訳を策定中。

1. 鉱業一般概況

- ・ 2008年4月、ラオス2番目の銅鉱山として Phu Kham 鉱山が銅精鉱の生産を開始しており、2009年、2010年とその生産量を伸ばしている。同鉱山は、2005年に上部の酸化鉱石を対象に金鉱山 (Heap Leach) として開発され、キャッシュフローを確保しながら下部銅・金鉱床の開発を行い、銅精鉱の生産に至った。当初立ち上げた Heap Leach プラントは2010年4月にその操業の幕を閉じた。
- ・ ラオス最初の銅鉱山である Sepon 鉱山の権益は、2008～2009年にかけて、当初の権益90%の保有者であった Oxiana 社 (豪) から企業合併を伴い OZ Minerals 社 (豪) へと移り、その後の資金繰り悪化のため2009年6月に China Minmetals Corp に売却。2010年12月には China Minmetals Corp の親会社である China Minmetals Non-ferrous Metals Co の傘下企業再編などにより、現在は

Minmetals Resources Ltd (香港上場) がその権益保有者となっている。

- ・ 双日 (株) は 2009 年 10 月、日鉄鉱業 (株) と共同で首都 Viang Chan 西約 100km に位置する Moune 地区 (ムン、約 226km²) の銅鉱床探鉱権を取得したと発表、現在探鉱活動継続中である。日本企業による同国での銅鉱床探鉱権の取得は初めてのことである。
- ・ 三井物産 (株) は 2010 年 8 月、Rio Tinto と共同で会社を設立 (三井物産 30%、Rio Tinto 70%) し、ラオス南部 Attapeu 県と Sekong 県にまたがる地域でボーキサイトの探査を開始したと発表した。5 年間の探査権が 2008 年 12 月に両社に与えられており、探査は 2010 年 2 月に開始、この度共同会社も設立したというもの。探査地域は 484 km² におよび、約 7 億円の探査費を投入する計画としている。
- ・ Phu Kham 鉱山を操業する PanAust 社は、2010 年 2 月、探鉱段階の Phonsavan 銅・金プロジェクトの KTL 鉱床の予測・概測資源量を発表した。資源量は合計で 8,160 万 t、銅品位 0.43%、金品位 0.19 g/t (カットオフ銅品位 0.25%) で、銅 35 万 t、金 50 万 oz (15.6 t) が含まれる。資源量 1 億 t を目標に探鉱を継続し、2012 年中の FS 完了を目標とする。
- ・ 2011 年 4 月に、中国アルミ大手 Chinalco (中国アルミ業公司) は、子会社である Chalco (中国アルミ業股份有限公司：香港及び上海上場) を通じ、ラオス国営サービス企業とラオス南部における鉱物資源の共同開発の実施を発表した。

2. 鉱業政策の主な動き

(1) 新鉱業法

新鉱業法案が 2008 年 11~12 月の国会で採択され、2009 年 12 月に公布された。ラオス政府が英文訳を策定中。

(2) 新投資法

2009 年 7 月、外国からの投資手続きを簡素化して門戸を一層広げると共に、国内及び外国投資を平等に扱うため、従来の外国投資奨励法及び国内投資奨励法を改正し、統一投資奨励法を国会で採択した。現在新法を施行するための政令制定作業中。

統一投資奨励法の主なポイントは以下のとおり。

- ・ 国内投資奨励法と外国投資法を統一し、外国と国内の投資家が投資する際のインセンティブ等での区別の廃止
- ・ ‘ワンストップサービス’ の提供
- ・ 大規模事業のコンセッションの最長保有期間を 99 年間に延長
- ・ 特定分野での投資奨励のため、現代技術を使用した農業加工・工業加工、人材開発、公共衛生などの政府が定めた優先地域への投資事業に対し特別インセンティブの付与

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	2010 年増減比 (%)
銅 (千 t)	89.0	121.6	132.0	8.6
亜鉛 (千 t)	2.2	3.3	3.0	-9.1
錫 (千 t)	0.7	0.3	0.6	100.0
金 (t)	4.3	5.3	5.1	-3.8

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2011)

(2) 主要金属地金生産量

表 3-2. 金属地金生産量

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	2010 年増減比 (%)
銅 (千 t)	64.1	67.6	64.2	-5.0

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2011)

(3) 主要金属消費量

データなし

(4) 主要金属輸出货量

データなし

(5) 主要金属輸入量

データなし

4. 鉱山・製錬所状況

- ・ Sepon 鉱山は、2002 年に豪州資本の Oxiana 社により金鉱山として開発され、2005 年に Sxew による銅カソード生産も開始された。鉱山所有者は、Oxiana 社→OZ Minerals 社→China Minmetals Corp と変遷し、2010 年 12 月の China Minmetals Corp の子会社である China Minmetals Non-ferrous Metals Co の傘下企業再編により現在は Minmetals Resources Ltd（香港上場）がその権益を引き継いでいる。2010 年の銅生産量は、天候不順及び設備の計画シャットダウンに伴い 2009 年の 67,561t から 5%減の 64,241t となった。投資額 1.03 億 US\$により進められていた年産能力 8 万 t への拡張は 2010 年中に完了。
- ・ Phu Kham 鉱山は、2005 年に豪州資本の Panaust 社により金鉱山（Heap Leach）として開発され、2008 年 4 月に銅精鉱の生産も開始されている。2010 年の銅生産量は、操業が軌道に乗り 2009 年の 54,019t から 26%増の 67,806t となった。Phu Kham Gold Heap Leach プラントは 2010 年 4 月に操業の幕を閉じた。

表 4-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業（権益：％）	鉱種	生産量	備考
Sepon	Minmetals Resources Ltd(90) Government of Laos(10)	銅（Sxew カソード）	64,241t	
		金	104,547oz (2,964kg)	
		銀	46,490oz (1,318kg)	
Phu Kham Copper-Gold	PanAust Ltd(90) Government of Laos(10)	銅（精鉱中含量）	67,806t	
		金（精鉱中含量）	58,152oz (1,649kg)	
		銀（精鉱中含量）	507,590oz (14,390kg)	
Phu Kham Gold Heap Leach	同上	金	2,490oz (71kg)	



図 1. 主要鉱山位置図

5. 探鉱状況

Phu Kham 鉱山を操業する PanAust 社が、ラオス北部で Phonsavan 銅・金プロジェクトを実施中。同プロジェクトの KTL 鉱床の予測・概測資源量は合計で 8,160 万 t、銅品位 0.43%、金品位 0.19g/t (カットオフ銅品位 0.25%) で、銅 35 万 t、金 50 万 oz (15.6t) が含まれる。資源量 1 億 t を目標に探鉱を継続し、2012 年中の FS 完了を目標とする。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

日本への精鉱及び地金輸出力 (マテリアル量)

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	対前年増減率 (%)
インジウム (t)	0.5	3.2	11.8	268.8

(出典：財務省貿易統計)

(2) 日本企業による投資状況等

- ・ 双日 (株) は 2009 年 10 月、日鉄鉱業 (株) と共同で首都 Viang Chan 西約 100km に位置する Moune 地区 (約 226km²) の銅鉱床探鉱権を取得したと発表、現在探鉱活動継続中である。日本企業による同国での銅鉱床探鉱権の取得は初めてのことである。
- ・ 三井物産 (株) は 2010 年 8 月、Rio Tinto と共同で会社を設立 (三井物産 30%、Rio Tinto 70%) し、ラオス南部 Attapeu 県と Sekong 県にまたがる地域でボーキサイトの探査を開始したと発表した。5 年間の探査権が 2008 年 12 月に両社に与えられており、探査は 2010 年 2 月に開始、こ

の度共同会社も設立したというもの。探査地域は 484km²におよび、約 7 億円の探査費を投入する計画としている。

7. その他トピックス

特になし

(2011. 7. 29 ジャカルタ事務所 高橋健一)